

第 645 回：【4 年生向け】チャッピーと卒論を書く（MK）

このタイトルで院生である私が LA として記事を書くことには、AI の利用を推奨しているように受け取られないかという迷いがありました。しかし、重要なのは、AI を使うか使わないかという二択ではなく、何のために、どのように使うのかということではないでしょうか。今回は、卒論を書く過程での AI との付き合い方について考えてみたいと思います。

まず大切なのは、AI が書いた文章をそのままコピーして卒論にする、という使い方をしないことです。AI が出してくれた文章やアイデアをあくまでも自分の文章を見直すための「きっかけ」として使う。これが AI を卒論に活用するうえでの鉄則だと思います。AI を使うことで論文を書く作業そのものはかなり効率化できます。ただし卒論の質が上がるかどうかは、AI が何を書いてくれるか以上に、その内容をもとに自分の文章を改良できるかどうかにかかっています。

では、AI は卒論を書くうえで具体的に何が得意なのでしょう。

たとえば、多くのゼミでは、3 年次から卒論のテーマを決め、テーマに関連する内容を少しずつプレゼンし、その都度先生からコメントをもらうという形で卒論の準備を進めてきたと思います。

一方で、4 年生になってから、「これまでプレゼンしてきた内容や、先生からもらったコメントにどのような関係があり、どの順番で説明すれば、自分の主張が読み手に伝わるのかがわからない」と悩む人も少なくありません。

こうした場面では、たとえば、自分がこれ

まで集めてきた情報や考えていることを入力し、「これらを論文として構成するとしたら、どのようなつながりが考えられるか」と尋ねてみる。

そこで得られた構成をそのまま採用するのではなく、「この順番は自分の考えに合っているか」「この論理のつながりには根拠があるか」と検討することで、自分では気づかなかった論理の飛躍や説明不足が見えてくることがあります。

もう一つ、AI が役立つのは文章そのものを見直す場面です。

卒論を書くときには、「自分らしい文章」を意識するあまり、必要以上に個性的な表現になったり、エッセイのように自分の経験や感想が前面に出たりすることがあります。しかし、論文で重要なのは、個性的な文章を書くことではなく、必要な背景を示し、根拠を提示しながら、自分の考えを論理的に説明することです。「論文として読んだときに自然なのか」「説明が足りないところはないか」と不安になったとき、AI に文章を読ませて意見を聞くのも一つの方法でしょう。

ただし、AI には不得意なこともあります。特に注意したいのが、情報の正確性です。AI は、存在しない文献や根拠のない数字を、あたかも事実であるかのように提示することがあります。「これは本当なのか」と少しでも疑問に思った情報や、自分では調べていない数字・主張が出てきた場合は必ず自分で確認してください。使用した資料についても大学やゼミのルールに従って適切に出典を示す必要があります。

また、AI が提案した文章が一見きれいに

第 645 回：【4 年生向け】チャッピーと卒論を書く（MK）

見えても、実際に声に出して読んでみると「なんとなく自分の言いたいことと違う」と感じることがあります。最終的にその文章に責任を持つのは自分自身です。納得できなければ、自分の言葉で書き直しましょう。

「AI を使って卒論を書く」と聞くと、ズルをしているように感じるかもしれません。しかし、重要なのは AI を使うかどうかではなく、AI に何を任せ、何を自分で考えるのかということです。AI の得意なことと不得意なことを理解し、最後は自分自身で考え、確認し、判断する。その姿勢があれば、AI を卒論を書くための道具としてうまく活用できるのではないのでしょうか。

参考文献

『# 卒論修論一口指南』田中草大、文学通信、2022

『コピペと言われないレポートの書き方教室』山口裕之、新曜社、2013